

<https://:sleep-natura.jp>

羽毛ふとんの手引き

羽毛ふとんを、長く快適にお使いいただくために正しい方法でお使いください



INDEX

羽毛布団の使い方	-----	2
羽毛布団のお手入れ方法	-----	6
羽毛ふとん Q&A	-----	7
羽毛布団の正しい選び方	-----	8
希少なステッキーダウン	-----	12
羽毛工房ダウンラボ	-----	13
10年経ったら羽毛リフォーム	-----	14
本物の羽毛布団を求めて	-----	16
羽毛原料と生地の一覧	-----	18



より質の高い、快適な眠りのために 羽毛ふとんの正しい使い方 1

お買上げいただきましたら

保証書は保管しておいてください

保証書や説明書には目を通してご確認の上、保管してください。サポートを受けるときに必要です。眠りのプロショップSawadaオリジナル羽毛ふとんの場合の保証期間は3年または10年です。

当社では保証書に連番を振って、過去のデータを保存しています。紛失された場合でも、お買上げいただいた方・電話番号等がわかればサポート可能です。

長く使うために、ご使用前に説明書をご一読ください

羽毛ふとんの特徴は、軽くて、保温性・放湿性に優れて、なおかつ長持ちするという多くの素晴らしい性質を持っていますが、その特徴を十分味わっていただくためにも、正しい使い方をマスターしましょう。

羽毛ふとんは必ずカバーを掛けてお使い下さい

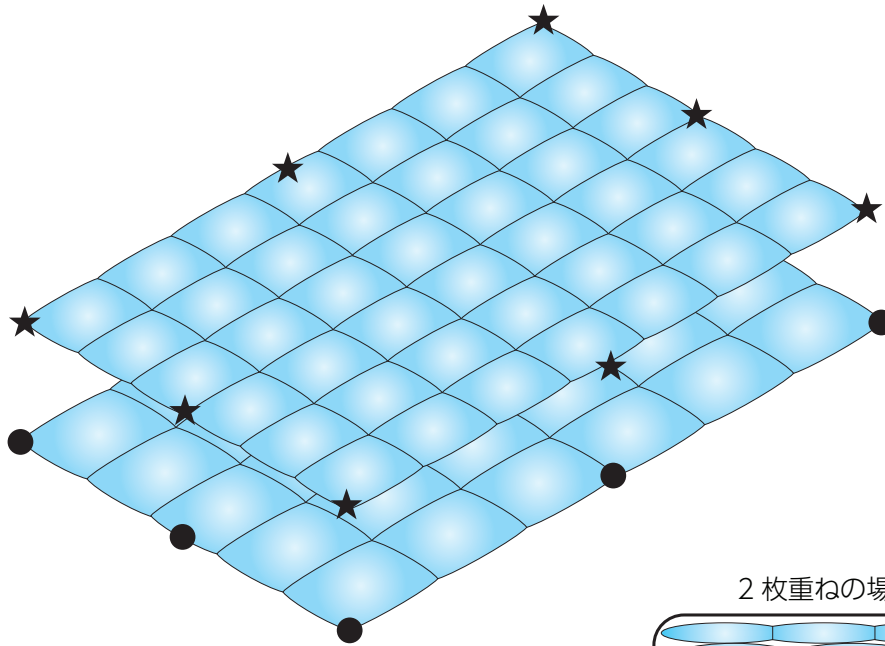
カバーを掛けて、こまめに替えることが寿命をのばすポイントです。

- 羽毛ふとんの8ヶ所にカバーを固定するループ（ひも掛け）がついています。カバーについているヒモ（またはホック）をループにくくり、中でふとんがずれないようにして下さい。できるだけ8ヶ所あるものをお選びください。
- 当社の羽毛ふとんはCON二層式キルト以外は、表裏・上下がありません。適当に表裏・上下を入れ替えてお使いください。
- CON二層キルトの場合は横についている品質表示ラベルのサイズ表示があるほうを表にしてください。（「こちらが表面です」の表示があります） 上下の区別はありません。



当社のCON二層キルトの羽毛ふとんには「こちらが表面です」の表示がしています。

中厚（あるいは普通厚）と肌掛を2枚合せて使う時は

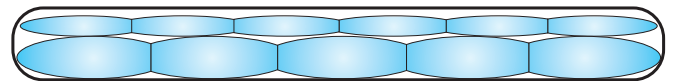


春・秋は普通厚1枚
又は中厚1枚
夏は肌掛1枚
冬は2枚重ね

2枚重ねて使う場合は、8ヶ所のループを2枚一緒にまとめてくります。

このとき厚い方のふとんを下部にしたほうが、中でずれにくくなります。

2枚重ねの場合は薄い方を上に



厚い方を下にした方がずれにくくなります

冬により暖かく眠るために

■毛布は羽毛布団の上ではなく、中に使うのが正しい方法

天然素材の毛布を中に使ってください。ポリエステルやアクリルなどの合成繊維の毛布は、吸湿性が低く暖まった後に蒸れやすくなります。これでは、羽毛布団の天然の良さを損ねてしまいます。

また、重量のある毛布を上には掛けると、毛布の重みで布団がつぶれてしまい、保温力を低下させてしまいます。上には掛ける場合は軽い肌布団等をお使いください。

■薄手の天然素材、特にカシミア毛布を使うと肩が冷えない

ウールやカシミア、シルクなど風合いの良い天然素材の薄手の毛布がおすすめです。

身体に巻き付けるようにすることで、暖まった空気を逃しません。肩が冷えるという方はぜひお試しください。素材の中ではカシミアが最も早く暖まります。

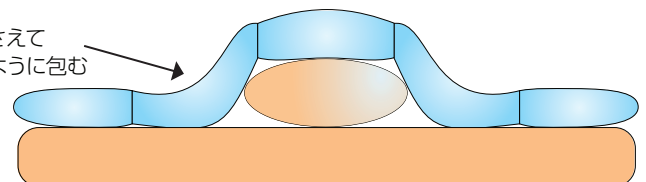
■暖かい生地のカバーを使う

毛布を使わない場合は、肌に当たる面がガーゼや起毛、ニットなど暖かい素材のカバーをお使い下さい。毛布同様、ポリエステルやアクリルなど合成繊維は蒸れの原因となるため、避けた方が無難です。

■ふとんをトンネル状に使う

下図のように羽毛ふとんをトンネル状にして包むようにして使うと、熱が逃げにくくなりより暖かく眠れます。

ここを押さえて
体に沿うように包む



より質の高い、快適な眠りのために 羽毛ふとんの正しい使い方2

暑さを感じるようになってきたら

羽毛は保温性や吸湿発散性に優れ、温度と湿度の調節が得意な素材ですが、季節に応じて適切な厚さやカバーを選ぶことでより快適な眠りが得られます。

快適な寝床内温湿度は 33℃ 50%です

高温多湿の日本では、保温力だけでなく、湿度を快適に保つことが重要となってきます。吸湿性の悪い素材を寝具やパジャマに使っていると、温度が適温になってきたときに、湿度が高くなり蒸れて不快感が増し、睡眠の質を損ねます。

■初夏：蒸し暑くなる季節で使う場合

季節に合わせて合掛5～肌掛3を使います。

湿度が上がるので、カバーも軽量の綿ローンやリネン麻など乾きが早くサラッとした素材にすることで快適さが増します。

■夏：暑い時期の使い方

エアコンを使わない、最低限にする場合は羽毛布団より、側生地も中綿も麻100%素材の本麻布団の方がいいでしょう。

エアコンを使用する場合は、肌掛3～薄掛1にリネン麻のカバーを組み合わせます。

体質・季節・住環境に合わせた最適な厚さの選び方

暑がりや寒がり・冷え性など体質によって使用する厚さが異なります。さらに伝統的な日本建築と、最近の高密度高断熱住宅では、羽毛布団の選び方が異なります。使う方によって最適な厚さの羽毛布団を選ぶことが大切です。

■暑がり、もしくは標準体質で高气密住宅の場合

新しいマンションや新築住宅は気密性が高いので中厚7を基本にします。

基礎代謝量が高い若い男性や子どもなど、汗かきで暑がりの方もこちらです。

■標準体質で一般的な住宅の場合

一般的な選択です。普通厚8を基本に考えます。

■寒がり、気密性の低い和建築や部屋が寒い場合

保温力厚手10の二層キルトや、中厚7+肌掛け3の2枚重ねを使います。2枚重ねの方が保温力は上がり、オールシーズン使えて便利ですが、重量も増えますので、軽量の生地を選びましょう。

カウンセリングで体質に合わせて選べる 10 段階の厚さ

暑がりや寒がり、使う人の体質や、部屋の保温力に合わせて最適な厚さを選ぶことが重要です。

眠りのプロショップSawadaは、快眠カウンセリングで体質や住環境に合わせた最適な厚さの羽毛布団を提案しています。基本は 10、8、7、5、3、1 の厚さからお選びください。

保温力	10 厚手	9 普通厚+	8 普通厚	7 中厚	6 中厚-
キルティングパターン	厚さ 10 ●●●●●●●● 二層 CON キルト 3×5-4×6 (厚手)	厚さ 9 ●●●●●●●● 変形5×5 (普通厚+)	厚さ 8 ●●●●●●●● 変形5×5 (普通厚)	厚さ 7 ●●●●●●●● 5×6 (中厚)	厚さ 7 ●●●●●●●● 5×6 (中厚)
シングルのキルト	2層CON-3×5-4×6	変形5×5 7cmマチ	変形5×5 7cmマチ	5×6 7cmマチ	5×6 7cmマチ
標準 羽毛充填量	1100g	1000g	950g	800g	700g
摘要	寒がりの方、特に寒冷地や、伝統的な日本建築など保温性の低い住環境の方におすすめ。	標準的な厚さだが、寒がり、もう少し保温力を上げたい方向け	標準的な厚さ。身体の中央部に縫い目が来る4×5マス(シングル)の欠点を改良して、保温性を改善したキルト。	暑がりの人や、代謝量の高い子どもや若い男性などにおすすめ。都市部のマンションも基本は中厚がベスト	都市部のマンションや高気密高断熱住宅で、なおかつ暑がり向きの中厚より少し薄い仕上げ。

保温力	5 合掛	4 肌掛+	3 肌掛	2 肌掛-	1 薄掛
キルティングパターン	厚さ 5 ●●●●●●●● 5×6 (合掛)	厚さ 4 ●●●●●●●● 5×6 (肌掛+)	厚さ 3 ●●●●●●●● 6×7 (肌掛)	厚さ 2 ●●●●●●●● 6×7 (肌掛-)	厚さ 1 ●●●●●●●● 7×9 (薄掛)
シングルのキルト	5×6 4cmマチ	5×6 直キルト	6×7 直キルト	6×7 直キルト	7×9 直キルト
標準 羽毛充填量	500g	400g	300g	250g	200g
摘要	4~5月、10月などの中間時期の季節に向けた、中厚よりマチを低くしてさらに薄めに仕上げたキルト。都市部の子ども用にもおすすめ	寒冷地や伝統的に貼音建築など保温性の低い住環境向けの少し厚め仕上げの肌掛け	5月~10月上旬にかけて使用する肌掛布団。キルトマスを中厚より増やして、2枚重ねでも使えるようにしている。	都市部のマンション等向けの少し薄い肌掛け。合掛500g(~600g)と組み合わせるのもベター	真夏等にエアコンを使う場合などに、キルトマスを増やして薄く仕上げた薄掛。

羽毛の充填量はSB100生地 (85g/m²) に440dpの羽毛を入れた場合の標準充填量です。

10段階の入れ目から、さらにお好みに合わせて薄め、厚めに仕上げることができます。

羽毛の充填量は、生地が重くなると多く必要で、羽毛のパワーが大きいと少なく、パワーが小さいと多く必要です。

SB100以上の生地は厚さ6~厚さ9までの7cmマチは、羽毛の移動がない完全立体キルト仕様です。

TE135G、SB80等の生地でも、オプションで完全立体キルトにすることができます。

長く快適にお使いいただくために 羽毛ふとんのお手入れ方法



羽毛布団の
メンテナンス

■陽当たりの良い室内干し、または、布団乾燥機がおすすめ。

外に干すとPM2.5等さまざまなアレルゲンを不着させることが多いので、陽当たりの良い部屋での室内干しをおすすめしています。外に干す場合は、カバーを掛けたままにして、干し終わってからカバーを洗ってください。昨今はホースを差し入れるだけの簡単な布団乾燥機がありますので、お手軽におすすめです。

■側に穴を開けないで下さい

昔のおふとんのようにカバーを側地に縫いつけている方がおられます。羽毛ふとんの生地は穴を開けるとそこから羽毛が少しずつ出てきます。もし、穴を開けた場合は補修布を使うか当店にご相談下さい。

■軽く干してから収納

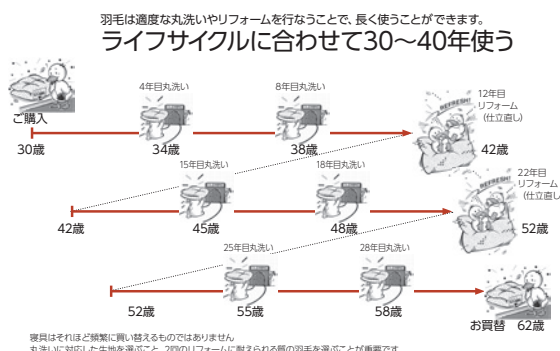
側生地に掃除機や粘着クリーナーをかけ、乾燥させたあと、付属の袋に入れて押入の高いところへしまってください。シングルの場合ふとんを3×3（三ツ折してさらに三ツ折）に折って下さい。ダブル、クイーンサイズの場合は3×4になります。

■3～5年に1度の水洗いクリーニング

当店の羽毛布団は基本的に手洗いでの水洗いを行うことが可能です。コインランドリーでのご使用は、ふとん側に負荷を与えるリスクがありますので、おすすめしておりません。基本的に3～5年に一度ですので、専門の丸洗いクリーニングで行っていただくのがベストです。丸洗いは当店でも受付しております。また、ドライクリーニングでは、羽毛の汚れは取れにくいのでおすすめできません。

■10年経ったらリフォーム（仕立て直し）

良い中身は30年以上使えます。10年も使うと側地が弱り、中の羽毛が汚れ、ホコリが増えます。10年経ったらリフォームをおすすめします。当店の羽毛ふとんリフォームはドイツLorch社のシステムを使った、プレミアムダウンウォッシュ仕様で、さらに5段階除塵による国内最高レベルのものです。リフォームの際には体質に合わせて、サイズや羽毛の量の変更もできます。他店で購入された羽毛布団もできますので、お気軽にご相談ください。



羽毛布団のリフォームについては
専用サイト down-reform.com
をご参照ください。



羽毛ふとんQ&A

Q：電気毛布やあんかなどは使ってもいいのでしょうか

一向にかまいません。普通のふとんと同じ様に使えます。ただ、一般的に電気毛布は体の水分を奪い、なおかつ寝る時に体温が下がるのを阻害する働きがあり、睡眠の質が悪くなりますので避けた方がいいでしょう。敷毛布や敷パッドなど、ふとんの保温性をあげることをおすすめします。ピラベックの羊毛ふとんを従来お使いの敷ふとんに重ねて使うと、保温力や速暖性が改善して効果的です。

Q：子どもがおねしょや嘔吐をしてしまいました。その対策は？

直ぐに丸洗いクリーニングをおすすめします。丸洗いをしていない時間が長い、代わりの布団がないなどの場合は、汚れた部分を風呂場でシャワー等をうまく使って洗います。その後干してください。乾きにくい場合は、ドライヤーを（余り近づけずに）使ってください。かなり広範囲の場合は布団を洗えるコインランドリー等で行うのもやむをえません。

Q：使っているうちに羽毛が片寄ってくるのですが？

それぞれのマスには羽毛を吹き込むための小さな穴がありますので、使い方によっては羽毛の片寄りができることがあります。片寄りがひどくなった場合は、リフォームをおすすめします。

当社ではオリジナル羽毛生地SB100以上の中厚・普通厚では完全立体キルト縫製をしております。この場合は羽毛が片寄りません。

Q：へたってきました。部分的に羽毛を足すことはできますか？

へたりが出やすい襟元など、羽毛が移動してしまったり、丸洗いしても十分に戻らない場合があります。10年経ってればリフォームですが、部分的に羽毛を足すことはできます。ただし、キルティングの仕様によっては端の部分しか足せないことがあります。

Q：羽毛が吹き出るので、大丈夫でしょうか？

通常羽毛ふとんの側生地はダウンプーフという吹き出し防止の加工がなされていますが、縫い目から羽毛ゴミ（ダウンファイバー）が少し出てくる場合があります。ヨーロッパ製は通気度が高く、羽毛の良さを引き出しますが、その一方で、吹き出しのリスクも上がります。一般に良く使われるサテン生地ですと、水洗いをするとうダウンプーフが取れてしまい、羽毛ゴミの多い原料だと吹き出しが目立つ場合がありますので、その場合はご相談下さい。通常はリフォームによって側を取り替えるのがベストです。

Q：ダニや虫がわいたりとか聞きますが大丈夫ですが

まず、羽毛ふとんに使う生地はダニを通しませんので、中からダニや虫が発生することはありません。ダニの場合は、敷ふとんや畳が原因であることが多いのです。こまめに掃除をして、フケや角質などを取り除くようにすることをおすすめします。

なお、掃除機はふとん専用掃除機は必要ありません。ふとん用のヘッドで通常の掃除機を使った方がよく取れます。

眠りのプロショップSawadaで扱っている羽毛ふとんは、原料レベルで非常に厳しいチェックを行っています。ご安心下さい。



快適で質の高い睡眠を得るために 羽毛ふとんの正しい選び方



羽毛布団の
選び方

ダウンの表示や嵩高だけにこだわった羽毛選びは間違い

羽毛布団の良し悪しを説明する際に、ほとんどの場合羽毛の産地や鳥の種類やダウンパワーなど、羽毛の品質だけが語られます。

しかし、この30年間、日本の生活環境は大きく変わりました。通気性を重視する伝統的な日本建築に対し、高気密高断熱住宅が大幅に増えました。快適な睡眠環境である温度33℃湿度50%を実現するためには、体質や睡眠環境に合わせて、生地の種類やキルティングを選ぶべきなのです。

羽毛ふとんの快適さは側生地が決まる

綿100%で軽量・高通気度の生地が望ましい

羽毛の良さを活かすためには、高い通気性と吸放湿性がある側生地が必要です。

綿100%の生地は吸湿性に優れています。さらに軽い生地は乾きも早く、速暖性にも優れます。さらに通気性の良い生地を使うことにより、羽毛が本来持つ温度や湿度を快適に調節する能力を活かすことができます。

従来使われてきた綿100%生地は、生地が重く(114~150g/m²) 通気度も1.3~1.7ccと高くありません。一方、当社オリジナル生地は生地が軽量(85~94g/m²)で通気度も2.6~3.5ccと高く、より快適です。ヨーロッパ製の生地だと5~6ccとさらに高いものもあります。

ポリエステルを使った羽毛側は蒸れやすくなる

コスト削減なのか、かつては綿100%が当たり前だった羽毛布団は、今日では多くがポリエステル100%かポリエステル混の生地になってしまいました。ポリエステルの側生地は通気性が悪いため、蒸れやすくなります。

現在お勧めしているのは、ヨーロッパ製の生地に加え、国産で綿100%、通気度が2cc以上、生地重量が100g/m²以下の軽量で通気性の良い生地です。

	通気度(cc/s)	生地重量(g/m ²)	摘要
ポリエステル生地・ポリエステル混生地	~1.0	80~100	
一般的に使われている綿100%サテン	1.1~1.7	114~150	60~80番手
超長綿80平織生地 SB80	2.6	94	当社オリジナル
超長綿100平織生地 SB100	3.6	85	当社オリジナル
ヨーロッパ製の綿平織生地	5~6	69~90	80~150番手

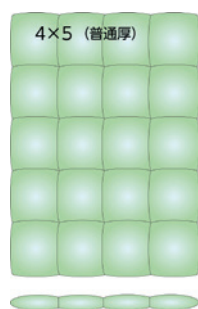
通気度が高い生地は、低品質の羽毛だとダウンファイバーなどのごみが多く、生地からの吹き出しができるリスクがありますので羽毛の品質とのバランスが重要です。

体質や住環境によって最適なキルティングと厚さを選ぶ

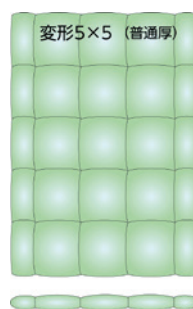
普通厚：変形5×5キルト：従来の4×5キルトの欠点を改良

最も一般的な普通厚は、標準的な体質で、標準的な住宅にお住まいの方におすすめの基本となるキルティングです。

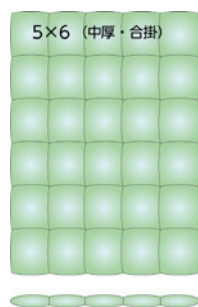
日本の場合、シングルサイズでは4×5マスのキルティングが一般的です。ところが、このキルティングは身体の中央部に縫い目が来て、熱が逃げやすくなるという欠点がありました。そこで眠りのプロショップSawadaでは、これを改良した変形5×5キルティングを標準にしています。これにより、同じ羽毛量でも保温力が改善し、身体へのフィットが向上しています。



4×5 (普通厚)
普通厚
一般的な
4×5キルト
身体の中央部に
縫い目が来て、
そこから熱が逃
げやすい。



変形5×5 (普通厚)
普通厚
当社定番品の
変形5×5キルト
身体にフィット
しやすく、保温
性も改善されて
いる改良キルト



5×6 (中厚・合掛)
中厚
5×6キルト
30マスになり身
体へのフィット
と通気性が向上



二層 CON キルト
3×5-4×6 (厚手)
厚手
二層CONキルト
保温性が高く、
偏りの少ない二
層構造

中厚：5×6キルト：30マスでフィット性と通気性も向上

暑がり体質や、高气密高断熱住宅では普通厚は暑すぎる傾向があり、キルティングマスを増やした中厚仕上げがおすすめです。マスを増やすことで身体へのフィット性も通気性も向上します。都市部のマンション等では、中厚より薄い合掛を求められるケースも増えてきました。

厚手：二層式 CON キルト 3×5-4×6

冬冷え込む地域での伝統的な日本家屋であったり、寒がりや冷え性など保温力を必要とされる方には、より保温性の高い二層構造キルティングをおすすめします。二層構造は表生地と裏生地の間にもう一枚生地を挟んで、表側と裏側のキルティングを変えることで、縫い目から熱が逃げるのをふせぎます。

一般にはシングルで表3×4、裏4×5が多いのですが、襟元の偏りが出やすいため、当店では表3×5、裏4×6のより安定した二層CONキルトを採用しており、さらに間の生地を通気性の高いメッシュを使うことで、蒸れやすいという欠点を改善しています。

メーカーの高級品には二層構造が多いのですが、昨今の住環境の変化を考えると二層構造が必要なお客様は減っていますので、事前にカウンセリングをおすすめします。

2023 ポーランド



羽毛ふとんの耐久性と快適性は羽毛の質で決まる

愛情を注ぎ、自然な状態で元気に育ったダウンが一番

ポーランドやハンガリーなどの羽毛の産地、ダウン率やマザーグースなど羽毛の違いが説明されていますが、一番大切なことは自然な状態で元気に育った鳥から得られる羽毛が、一番品質が良いという当たり前のことです。十分に育ったダウンボール、丁寧により分けられたごみの少ない羽毛、きれいに洗浄されて安全であることが、羽毛の品質の証です。

十分に育てられた大きなダウンボール

しっかりと育てダウンボールの中央が密集した羽毛は、長く使ってもダウンボールが壊れにくいのです。逆に、飼育期間が短いと未成熟ダウンが多くなり、これらはダウンファイバー（羽毛ゴミ）となって嵩が減ってきます。大きなダウンボールはリフォーム時にも嵩が戻りやすいのです。

パワーのある羽毛は少ない量で嵩がでます。そのため、空気が沢山含まれるために保温力に優れ、暖かく、吸放湿もすばやく行われます。

ダック（家鴨）よりグース（鵞鳥）が良い

羽毛を採取する鳥は家鴨（ダック）や鵞鳥（グース）などがあります。成長するとダック(3~4kg)に比べてグース(5~8kg)のほうが体長が大きいためにダウンボールが大きく、いい羽毛が採れます。

ダックは油脂分が多く臭いが出やすいのと、一般的にダウンファイバーが多い傾向にあります。ダックの方が飼育期間が短く、価格も安いので大量生産に向いています。羽毛の色にはホワイトとグレーがありますが、色による品質の差はありません。

良い羽毛を探すとポーランド？

ポーランドの羽毛が全て良い訳ではありませんが、良い羽毛がポーランドに多いのは事実です。これは、グースの品種が厳密に管理されているのと、個人農場が多いために、丁寧に育てる農家が多いためです。どのような天然素材でも、本当に良いものは個人の小さな農場で愛情を持って育てられたものであることは、世界中同じようです。

ごまかしの羽毛はリフォームをするとわかる

どれだけ表示が良くても、質の良くない＝飼育状態が良くない羽毛は使用しているうちに、壊れて嵩がなくなります。リフォーム加工を行うと、はっきりします。質の劣る羽毛は多く損なわれ、嵩の戻りが悪いのです。逆に良い羽毛は減る量が少なく、嵩も戻ります。

羽毛の品質基準について

嵩高性を表すダウンパワー (dp) とは

羽毛の嵩高性を表す数値です。ダウンボールが大きく、しっかりしているものほど高いダウンパワーが得られます。羽毛の品質を表す目安になります。

ゴールドラベルとは



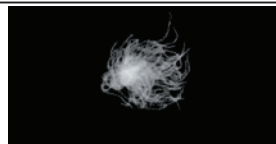
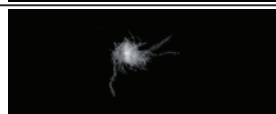



ゴールドラベルは日本羽毛製品協同組合が認定するラベルでゴールドラベル (300dp以上)、エクセルゴールドラベル (350dp以上)、ロイヤルゴールドラベル (400dp以上)、プレミアムゴールドラベル (440dp以上) に分けられます。眠りのプロショップSawadaが扱うのはロイヤルゴールドラベル相当、ダウンパワーが400dp以上の羽毛のみです。

ダウン率とは

羽毛のなかで、ダウン (胸毛) とスモールフェザー (小羽根) の割合です。ダウン率が50%以上を「羽毛布団」、50%未満を「羽根布団」と呼びます。羽毛の良し悪しの基準にもなりますが、ダウン率だけでは良し悪しの区別は付きにくくなっています。

産地と洗浄について

良質の羽毛はポーランドやハンガリーなど品種管理と生育管理がしっかりした、高緯度の国が多いですが、圧倒的に量が多いのは中国産です。洗浄が不十分だと臭いやすく洗っても取れません。品質管理がしっかりした国内工場での軟水による洗浄がベストです。

ダウン (クラスタからファイバーまでを含みます)	ダウン クラスタ	通称ダウンボールと呼ばれ、球状をした胸毛の羽毛です。	ポーランド ホワイトグース (飼育 17 週) 440dp	
		グースの方がダックより体長が大きいので良質のものが採れます	ハンガリー ホワイトグース (飼育 12 週) 400dp	
		飼育環境に優れ、時間をかけて育てた羽毛はダウンボールが大きく長く持ちます	中国 ホワイトダック (飼育 8 週) 320dp	
	未成熟ダウン (プルミュール)	まだ未成熟で小さく貧弱なダウンは、飼育期間が短い羽毛に多く、使用と共に壊れてファイバーになりやすい		
ファイバー	ダウンクラスタや未成熟ダウンが壊れたもの、羽毛のゴミ。ホコリの元になる。規格上は9%未満となっている			
スモールフェザー	長さ6.5cm未満の水鳥羽根。ネックフェザーという首元の鋭い小羽根は生地から飛び出しやすい。			
フェザー	長さ6.5cm以上の水鳥羽根 (クッション等に用いられる)			

絡みが強く、暖まった空気を閉じ込めます 希少なステッキードウン



ステッキードウン

眠りのプロショップ Sawada がおすすめするステッキードウン

羽毛の最高峰といわれるアイスランド・アイダーダックダウンはダウンが密に絡み合い、その中に暖まった空気を閉じ込めますので、非常に保温力が高く、登山隊のアンダーウェアにも使われるそうです。

寒暖の差が激しい地域の羽毛の中には、絡みの強いダウンがごく僅か取れます。これをステッキー（粘っこい）ダウンといいます。アイダーダックダウンほどの絡みはありませんが、ダウンボールが大きく、ホコリも少ないのが特徴です。眠りのプロショップSawadaでは、出回ることの少ない、この希少な羽毛を世界中から集めて、アイダーダウンに次ぐトップグレードとして位置付け、ラインアップしています。



アイスランド・アイダーダックダウン

アイダーダウンはアイスランドでも年間 2000kg しか得られない大変に貴重なダウンです。絡みが非常に強く、高い保温性を誇ります。



ポーランド・スーパープレミアム 手選別ステッキーホワイトグースダウン

下図のように、最高級のステッキードウンをさらに手選別によってホコリを取り除いています。非常に手間のかかる最高級ダウンです。

ポーランド・クラクフの羽毛工場での選別作業



新品も、リフォームも店内で一貫して加工してお届け 羽毛工房ダウンラボ



羽毛工房
ダウンラボ

羽毛の充填とリフォームを全て自社で丁寧に仕上げます こだわり抜いた品質の側と羽毛+製造直売でリーズナブルプライス

汚れてへたりやすい襟元や中央部は多めになど、実際にお使いいただく状態を推定して丁寧に仕上げています。ふとん側生地はヨーロッパ直輸入あるいは当社オリジナル仕様の生地を、国内の提携工場で縫製しています。

羽毛は、日本でも最高レベルの河田フェザーの原料に加え、最高級品は毎年ヨーロッパへ行って買い付けを行なっています。その一方で、販売価格は基本的に側代+羽毛代という明朗会計なので、別注品だからといって高くなりません。

中間マージンを省いた製造直売により、高品質の羽毛ふとんをお届けします。

ドイツ・Lorch 社羽毛リフレッシュマシンを導入

ドイツ・Lorch社の羽毛リフレッシュマシンを導入しています。ドイツの優良な寝具店には必ずといって設置されているこの機械は、日本の寝具店としては当社含め2社だけです。羽毛布団を1枚ずつ解体して、直に洗浄する方法でなので、袋に入れて何枚かまとめて洗う方法に比べ、よりきれいに洗うことができる最高レベルの洗浄方法です。

Lorch社は世界中の羽毛工場の洗浄・選別システムを手掛ける会社で、このマシンはリフレッシュ専用として製造されました。これにより、トップクラスの洗浄を実現したのです。

さらに新型の除塵機+サイクロン充填機を導入 5段階の除塵で羽毛のゴミを取り除きます

さらに除塵機と充填機を一新。Lorchのリフレッシュマシンから仕上がった羽毛は除塵機に通して、さらにゴミを取り除きます。1g単位で調節可能な充填機で、サイクロン機構によりゴミを取り除きながら正確に充填します。通常の工場ではできない丁寧な5段階の除塵体制やオゾンによる殺菌脱臭処理など、丁寧に新品同様に仕上がるのです。



店頭において国内屈指の設備を誇る羽毛工房ーダウンラボ
製造からリフォームまで一貫して行ないます

定期的なリフォームによって、長く使いましょう 10年経ったら羽毛リフォーム



羽毛布団の
リフォーム

通常の 1.5 倍の時間をかけて丁寧にリフォームします

羽毛ふとんは定期的にリフォームすることによって、長く使えるエコロジーな製品です。10年ぐらい使うと、側が弱ってくるだけでなく、中の羽毛も汗によって汚れてへたりが出てきます。これを仕立直し（リフォーム）することにより、良いものであれば50年以上も使うことができます。

羽毛ふとんのリフォームは、中の羽毛を取り出して直接洗いを行うプレミアムダウンウォッシュと呼ばれる方法がベスト。眠りのプロショップSawadaでは、ドイツ・Lorch社のリフレッシュマシンを使って直接洗い+除塵+選別を行います。

さらに、大型の除塵機を通すことによって、細かなファイバーやチリをさらに取り除き、サイクロン機構によってもう一度ゴミを取り除きます。この5段階に渡る徹底した除塵によって世界でも最高レベルの羽毛ふとんリフォームが可能になっているのです。



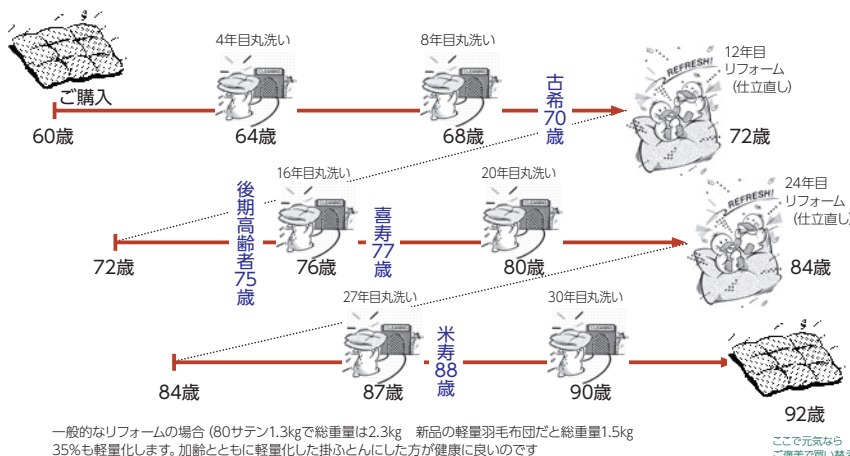
リフォーム前、側が汚れて嵩が減っている



リフォーム後、新品のようにふっくら甦ります

60歳、羽毛布団はリフォームすべきか、買い替えるべきか？

答え： ライフサイクルを考えると60歳は買い替え時期



リフォームする際には、現在の体質や寝室の保温性などを考えて、カウンセリングを行います。

ライフサイクルを考えてリフォームするか、買い替えるかを判断いただけます。

その上で、最適な生地やキルティング、厚さやサイズなどをご提案いたします。

羽毛ふとんのリフォーム工程

除塵①



古い羽毛ふとんから、
羽毛を取り出して
リフレッシュマシンに

洗浄は
洗剤洗 1 回
すすぎ 2 回



除塵②



乾燥+殺菌処理+
除塵
不良羽毛を選別
オゾンで殺菌脱臭



除塵③

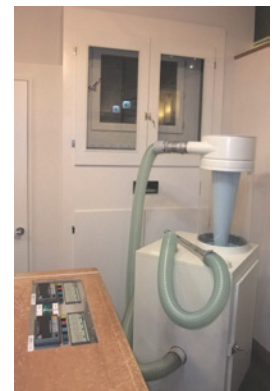
除塵機へ移動
さらにファイバー
(ゴミ) を選別



除塵④



リフレッシュした羽毛を
軽量して足し羽毛



サイクロン充填機で除塵
しながら充填



除塵⑤

新しいふかふかのふとんの出来上り
120 分かけて丁寧に仕上げます



快適な羽毛布団は如何にあるべきか 本物の羽毛布団を求めて

家業を継ぐために帰ってきた1983年、羽毛ふとんの普及率はまだ5%程度、訪問販売やマルチマがいの販売方法で羽毛ふとんが売られており、社会問題にもなっていた時期です。数年して急激な円高とともに、羽毛ふとんも急激に値段が下がっていき普及率は増えていきました。しかし、その一方で価格を追い求めるあまり、「これは…」というような表示と中身に違いがある羽毛ふとんが増えてきたのです。

羽毛ふとんを自家製で - R&R システムを導入

「このままでは、いけない」 1987年に羽毛ふとんの仕立てと簡単なリフォームができるR&Rシステムを導入しました。自家製で作ることにより、中身を確実なものにするためです。導入のメリットは3つありました。



最初に導入した
R&Rシステム

まず、羽毛というものを真剣に勉強することができ、正しい知識が得られるようになったということです。それまではといえば、普通のふとん屋同様、メーカーの言いなりでした。

天然の品である羽毛は、もちろんさまざまな要素によって等級がいくつにも分けられます。原料屋さんによっても同じ表示でも全然違う品質であることが、しばしばありました。品質にばらつきがあって返品したことも数知れず。プロの目を持つことがで

きたのが何よりです。

次に、自家製で作れるため、お客様にとって最適な厚みやキルティング方法を選ぶことができるようになったということです。人によっては薄目の方がいいという方もあり、嵩があった方が暖かくていいという方もあります。最大のメリットは、製造直売でお届けすることによって、良い品質の羽毛布団の価格をぐっと下げることができたことです。

ヨーロッパから原料を、オリジナル羽毛ふとんの開発へ

1997年にカウフマン社の羽毛に出会いました。初めてみるダウンボールの大きなステッキークースダウンなど、今までの羽毛とは異なる高いレベルの羽毛に驚き、ヨーロッパへ行って産地や原料加工の現場をみたことが大きな刺激となり、「本物の素材を使った、さわだオンリーのこだわり商品」を作っていこうと考えました。

現在では毎年1月にヨーロッパへ行き、現地のさまざまな情報を入手しながら、高品質のダウンや羽毛ふとん用の生地を選びめぐっています。側縫製は日本でいい、羽毛工房で吹き込みを行なうことで、本物の素材を使った高品質な羽毛ふとんをお届けしています。

快適な眠りのための羽毛布団を求めて、 睡眠環境コーディネーター・睡眠健康指導士の取得

一方、本当に快適な眠りとはどういうことなのか、それを求めて日本睡眠環境学会認定の睡眠環境コーディネーターや滋賀医科大学睡眠学講座認定の睡眠健康指導士を取得、品質が良いのはもちろんですが、お客様が快適にぐっすり眠れる睡眠環境をどのようにしていくか、という研究も続けています。

ポーランドのマザーグース農場



環境に優しくー寝具のグリーン購入とSDGsの推進

粗大ゴミの一番がふとんといわれています。であるとか・・・、これからは使い捨てをせずに良いものを長く使う、環境に負荷をかけない時代になります。羽毛ふとんのリフォームの推進や、できるだけ天然素材を使い、エコテックス規格の素材の採用をするなど、できる限り環境に優しい寝具のグリーン購入を推進しています。現在ではSDGsと呼ばれる取り組みの先駆けとして、2007年には第9回グリーン購入大賞で中小企業部門の大賞を受賞しました。

独 Lorch 社羽毛リフレッシュシステムを導入・全面改良

2006年に店頭設置としては全国で2番目に導入しました。羽毛を直接洗うプレミアムダウンウォッシュ方式なので、これで完全な洗浄を行うことができるようになりました。さらに、2009年には除塵を徹底するために、除塵機とサイクロン充填機を導入して、国内では最高レベルの設備を揃え、独自の高品質な羽毛布団をお届けしています。

自家製羽毛布団のみに全面切り替え、製品仕入れは中止

2010年からは羽毛ふとんは完全に自家製のみに切り替えました。有名メーカー製といえども羽毛の品質が不安だったからです。これらの他にない取り組みによって、2015年には経済産業省のがんばる中小企業・小規模事業者300社に選定をいただきました。

太陽光発電を導入し、CO₂排出を削減して実質ゼロに

2018年には本店・羽毛工房ダウンラボの屋根に太陽光発電を設置しました。羽毛布団を製造したり、リフォームする電気のCO₂をゼロにするなど、さらなる環境負荷の低減に努めています。

オリジナル羽毛布団生地を開発ーより快適な眠りに

羽毛布団に最適な生地は綿100%の平織で軽量、通気性が良いものです。ヨーロッパの羽毛布団用の生地と同等な生地 (SB100・SB80) をオリジナルで作ри、より快適な羽毛ふとん作りを今なお極めてしています。さらに、使用する側生地は全て、ヨーロッパ製もしくは日本製生地を国内縫製したものにして、より高い品質を実現しています。



睡眠環境コーディネーター・上級睡眠健康指導士
四代目店主 沢田昌宏

2016年5月TBSテレビ「ひるおび」
羽毛産地偽装報道において羽毛布
団の専門家として出演

店主がこだわりぬいて選んだ 羽毛原料と生地の一覧



羽毛布団の
ラインアップ

TE270・TE200・TE135G

ドイツWeidmann社製の超軽量で通気性の高い羽毛布団生地です。通気性が高いので基本的にダウン率95%以上のホワイトグースダウン（ステッキも含む）を使うのが原則です。225～250cm巾の生地ですので、セミダブルサイズ以上でも接ぎがありません。TE135GはGOTS規格認定のオーガニックコットン生地です。

SB100

国産で最軽量の超長綿100番手の平織り生地です。眠りのプロショップSawadaのオリジナル仕様で、ソフト加工であるカムフィット加工を2回行い、椿オイル加工で保湿性を高めています。通気度は、国内基準の上限に近い3.6cc（生地ロットによって異なります）にしていますので、ダウン率93%、430dp以上のグース羽毛を推奨しています。国内製織・国内仕上げです。

SB80

超長綿80番手の平織り生地です。眠りのプロショップSawadaのオリジナル仕様で、シルクプロテイン加工を施してあり、平織に出がちなペーパーノイズを抑えています。通気度は、サテンの通常の約2倍2.6cc（生地ロットによって異なります）にしていますので、リフォームを含め、ほとんどの羽毛を使うことができます。

生地名	生地ベンダー	組成	糸番手 打込本数	生地重量 (/㎡)	通気度 (cc/s)
TE270	Germany Weidmann	綿100% バティスト	120/150 380本	69g	6.0
TE200	Germany Weidmann	綿100% バティスト	110/110 351本	75g	5.0
S9100	日本 当社オリジナル	綿100% マハール バティスト	100/100 350本	85g	3.6
TE135G	Germany Weidmann	綿100% バティスト	80/80 307本	90g	4.0
SB8080	日本 当社オリジナル	綿100% バティスト	80/80 320本	94g	2.6
AD200	Germany Weidmann	綿100% プレミアムサテン	120/120 485本	94g	1.5
SE1014	日本	綿100% サテン	140/100	101g	1.1
WS8800	日本	綿100% スーピマ サテン	80/80 405本	114g	1.7
TN54	日本	綿100% ツイル	50/40 273本	137g	1.3

■はおすすめする平織軽量の生地です。 ■は通常扱いません

厳選されたオリジナル羽毛布団の原料

毎日お使いいただく羽毛ふとんには、原則として400dp以上ロイヤルゴールドラベル以上を推奨しています。
原産地そのものは優劣とあまり関係ないため、原産地は () で表記しています。

2026.6.1現在

日羽協のラベル基準	クラス	ダウンパワー	表示	羽毛の種類	コメント
特別に選別された絡みが非常に強い(ステッキークー)なダウン 絡みが強いために、高高は多くでないが保温性に優れている 手選別のためゴミも少ない	SP		ED95N	アイダーダック【手採取・手選別ステッキークー】 ダウン95% (アイスランド) ナノクリスタル加工	価格はその都度変動します
	I	470	PPST98	[ANIMEX] スーパープレミアム手選別ステッキークー ホワイトグース ダウン98% (ポーランド)	限定品
	I	470	PPMG95	[PerterKoh] プレミアム マザーホワイトグース ダウン95% (ポーランド) FP1000	限定品
	I	440	PMST95a	ステッキークーホワイトグース ダウン95% (ポーランド・ポメラニアン)	限定品
	I	430	PST95N	ステッキークーホワイトグース ダウン95% (ポーランド) ナノクリスタル加工 (実測438dp)	限定品
 プレミアム ゴールドラベル 440dp以上	II	440	PMG95N	マザーホワイトグース ダウン95% (ポーランド) ナノクリスタル加工	定番品
	II	440	HWG95	ホワイトグース ダウン95% (ハンガリー)	スポット
 ロイヤルゴールド ラベル 400dp以上	III	430	PKWG93S	ホワイトグース ダウン93% (ポーランド・クロネツキ農場個体種)	定番品
	III	410	KWG93	ホワイトグース ダウン93% (吉林省・ハンガリー原種ホルトバージ)	スポット
	III	400	HSG90	シルバーグース ダウン90% (ハンガリー)	スポット
	IV	400	FPD93S	ミュラーホワイトダック ダウン93% (フランス)	定番品
	IV	400	FPD90A	ミュラーホワイトダック ダウン90% (フランス)	準定番品
 エクセルゴールド 350DP以上	V	350	WD85	ホワイトダック ダウン85% (台湾)	通常 取り扱い無し
 ニューゴールド 300DP以上		300		当店では取り扱いません	

※羽毛原料や生地については、産地等の状況で変更になったり価格が変動することがあります



ダウンパワー測定器

(1DP = 1cm³/1g)

専用の測定装置の中に羽毛を入れ、布団の中の羽毛と同程度の圧力をかけて容積を計る。羽毛は35gを採取し、規程のドライヤー処理やスチーム処理等を施し、30gを取って試験試料とする。
平成24年4月1日より実施



長く使う、再利用する、自然に還る

眠りのプロショップ Sawada は地球環境に対する負荷を軽減するため、
上の3つのテーマをもとに寝具のグリーン購入を推進し、
SDGsの実現に向けての取り組みを行っています。



2007年 第9回グリーン購入大賞 中小企業部門 大賞受賞
2015年 経済産業省がんばる中小企業・小規模事業者300社選定
(一社) 滋賀グリーン活動ネットワーク 理事



眠りのプロショップ Sawada 羽毛工房ダウンラボ

株式会社沢田商店 1890(明治23)年創業

〒526-0052 滋賀県長浜市神前町 9-11

TEL. 0749-62-0057

URL <https://sleep-natura.jp>

FAX. 0749-62-0094

E-Mail info3@sleep-natura.jp



眠りのプロショップSawada
<https://sleep-natura.jp>



羽毛布団リフォーム
<https://down-reform.com>